

藤のまち未来

市民のみなさまへ…会派「藤のまち未来」通信



ホームページ

発行所

藤枝市議会

会派「藤のまち未来」

〒426-8722 藤枝市岡出山1-11-1

info@fujinomachi-mirai.jp

TEL.FAX:643-6896

発行責任者:岡村好男

編集・制作:平井 登



J1ライセンス取得でまち・人が変わる



J2基準をクリアする屋根付きバックスタンド整備工事は12月中に完工予定 (9.30撮影)

蹴球都市に相応しいスタジアムの実現で期待できる経済&スポーツ・文化の発展

J2リーグが終盤戦を迎えた9月26日、サッカーJリーグは藤枝MYFC、いわき、J3の讃岐にJ1ライセンスを交付すると発表した。MYFCは昨年度J3で2位となりJ2昇格を果たし、現在J2基準の収容観客数1万人を満たすための屋根付きバックスタンド整備工事が、本年12月完工を目指して行われている。

今般のJ1ライセンス取得により観客数1万5千人収容のスタジアム整備とクラブハウス併設の天然芝専用練習場が必要になる。ただし、MYFCについては、施設基準で例外規定が適用され、スタジアムはJ1昇格後5年以内、天然芝練習場は3年以内に整備に着工すれば条件を満たすことになるため、猶予期間がある。

昇格に備えることで本市の魅力と活力がさらにアップ

ただ現在の順位や勝率からは、昇格実現はもう少し先になると思われるが、来年こそはJ1昇格圏内に躍進することに期待したい。

14万都市藤枝にJ1クラブチームが誕生すれば、それに伴う観客動員数増加による市内外への様々な経済効果やスポーツ・文化の進展が市民や来訪客のパワーにより生み出される。

子どもたちの夢をはぐくみ
世界で活躍できる選手育成の拠点施設

MYFCのホームゲームでは、多くの子どもが観戦し応援している。未就学児やホームタウンの小学生は無料観戦できるサービスをMYFCが提供しているからである。

藤枝総合運動公園のサッカー専用スタジアムはピッチとスタンドが近く、選手の躍動する姿を目の当たりにできることから、子どもたちの憧れや夢をはぐくむのに理想的な設計である。

世界で活躍する選手を藤枝から輩出するため、J1仕様スタジアム及び必要な環境整備に、本市は未来志向で取り組んでいきたい。

◆例外規定が適用される施設基準と条件

- ①収容観客数 15,000人(両ゴール裏 芝生席のスタンド改修)
→ J1昇格後5年以内に着工
- ②天然芝の専用練習場(クラブハウス併設)
→ J1昇格後3年以内に着工

◆天然芝の専用練習場と駐車場の適地は

- 〈練習場〉(1)堀之内地区の白地農地(面積約1.5ha) ※1
(2)藤枝市民グラウンド・サッカー場 ※2
- 〈駐車場〉スタジアム近隣周辺の白地農地 ※3

※1 堀之内地区からは農地の維持困難を見据えた、地区及び公益に資する有効利用の相談が継続して市に持ち掛けられている。
※2 市民のためのグラウンドが特定企業に専有されることは避けたい。
※3 公園、宿舍等の併設が望ましい。

会派提言

主要事項

令和6年度予算編成に向けた

- 一 人口及び世帯が急増する高洲南小学校区に、第2の地区交流センターの新設を図りたい。
- 一 交通量が激増している小川島田幹線(葉梨-高洲線から焼津市境まで)の延伸接続を県に強く要望され、南部地区の渋滞緩和を図りたい。
- 一 農山村への移住定住対策の強化を図りたい。
- ①「空き家バンク」利用希望者が、物件不足で他市町へ流失している現状を改めるため、入居期限付集合住宅を中山間地に建設されたい。
- ②人・農地プラン(地域計画)の進捗と併行し、農地から宅地への転換政策を講じられたい。
- 一 小中学生のタブレットが重くて機能も低いため、軽量・高性能の新機種への更新を図られたい。
- 一 教員の負担軽減のため、支援員とスクールサポートスタッフの増員を図られたい。
- 一 歩行者の交通安全確保のため、各地域から要望のある押しボタン式信号の設置について、県に強く要望を行われたい。
- 一 障がい児(者)のショートステイとグループホームの充実、さらなる家族への支援を図られたい。
- 一 市立総合病院への交通渋滞解消と、青島北小学校周辺のゾーン30指定を図られたい。
- 一 葉梨街道の旧押切橋と境橋に、歩行者・自転車専用道路を新設されたい。
- 一 市境の道路、河川等の環境整備は遅れが目立つので、隣接市と協議を進め改善を図られたい。
- 一 市全体での脱炭素化を図る施策を、事業者と連携しつつ全庁あげて推進されたい。



一般質問



発言順17番(9月11日)
平井登議員



熱中症対策の現状と屋外労働者への支援・助成

問 熱中症リスクをもちに受け、また、冷房設備等の設置が不可能な屋外労働者(建設・土木業、農林・造園業、警備業等)を対象に、熱中症予防に効果の高い「送風ファン付作業服」等の購入補助金制度を設けていただきたいが所見を伺う。

答 屋外労働者をはじめとした現場作業員を熱中症リスクから守るために平成28年度に施行した「従業員労働環境改善事業費補助金」に「熱中症予防グッズ」を支援対象に加える方向で検討する。

問 その制度は法人対象と思うが、農家や個人事業者、ボランティア団体等、法人でない労働者にはどう対策されるのか伺う。

答 その対象や基準については商工会議所、商工会、JAなど関連機関と協議し慎重に検討する。

《意見》 法人・個人・ボランティア等に拘わらず、すべての現場作業員に公平に行政サービスが行き届くよう設計をお願いしたい。

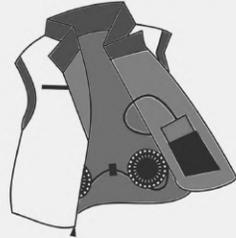
問 炎天下で朝から晩まで作業する屋外労働者にとっては予防グッズというレベルではなく、「生命維持装置」である。そういう重要な物品を支援対象に加えるとの答弁に感謝するが、いつの実現を目標に検討されるか伺う。

答 令和6年度の予算化に向けて検討する。

中山間地の飲料水供給施設助成事業の状況

問 令和5年度当初予算500万円に対しての執行状況と今後の事業見通しを伺う。

答 令和4年9月の台風15号で小規模水道が大きな被害を受けた。また、寺島・助宗地区では、県による瀬戸川護岸災害復旧工事の影響で、共同井戸、個人井戸の濁りや断水が発生し、応急給水の実施や井戸の打ち替えを行ってきた。今秋、工事再開を迎えるが、度重なる井戸への影響を心配している。今後も起こり得る事態を踏まえ、当地区における水道の在り方を速やかに検討しなくてはならない。昨年12月に本助成制度を創設したが、これまで58件の申請をいただいた。本年度は、7月末現在で9件、約270万円を執行した。今後も、申請ごとに設備の修繕や更新の状況、対応時期など、職員が現場で審査を行い対応していく。来年度以降も必要な予算確保を行い、飲料水の確保が図られるように努める。



2023年度・会派「藤のまち未来」活動報告

意見聴取 行政視察 政策立案 会派提言

みなさまの働く現場から学ぶ 会派と市民の意見交換会

藤枝を元気にしたい! 「地域おこし協力隊」

○日時 8月23日 午後7時から
○会場 藤枝市役所西館5階、第3・4会議室

首都圏等からの移住・定住希望者の受け入れ対策の一環として本制度を利用している中、現在14名の隊員が各課に所属し活動されている。談話を通じ感じたのは、本市は隊員個々の独創的な活動に期待している半面、ミッションの捉え方や活動への理解、あるいは助言・指導が不十分のようだ。また、隊員間の連携を後押しする情報交換会もこの9月に始まったばかりという。

今後は、本市のさまざまな課題を一緒に解決し、藤枝をさらに元気にしようというパートナーシップを大切に、隊員の能力を遺憾なく発揮させるとともに、任期終了後も本市に定住され活躍していただけるような方策も講じていただきたい。(八木)



先進自治体や現地から学ぶ 会派の行政視察

1 スポーツ・観光の誘客施策

〈長崎市〉○視察日:10月3日



長崎市はサッカーJ2のV・ファーレン長崎のホームタウンであり観光地でもあることから、多くの人が来訪する町であるが、現在、民間企業(ジャパネットたかた)が新たに800億円をかけてサッカー専用スタジアムと付帯する施設を建設し、来訪客拡大を目指す一大プロジェクトに着手している。付帯施設には、ホテル・アリーナ・ショッピングモール・オフィスを設置し、サッカーの試合開催日以外も人を呼び込む仕組みが構築される。行政もこの動きを後押しするため、周辺の道路・歩道整備や事業補助等に力を入れている。サッカーのまちを標榜する藤枝市でも、規模の差こそあれ、民間と行政との連動・連携により来訪客のさらなる拡大に取り組むよう訴え続けたい。(鈴木)

2 八女茶の観光政策と里づくり

〈熊本県八女市〉○視察日:10月4日

玉露の三大産地(宇治・八女・朝比奈)として有名な八女市の星野村「茶の文化館」を訪ね、同館を運営する指定管理者「財星のふるさと」の専務理事井上さんと館長古賀さんに、八女伝統本玉露を核とした「お茶と文化の里づくり事業」について、これまでの歩みや取組、課題等のお話を伺った。また、八女玉露の味を最大限に引き出す淹れ方「しずく茶」も体験。地元の人材によって組織された「財星のふるさと」が、同村の自然・景観・歴史・文化・伝統産業と観光交流を有機的に結びつけながら活力ある里づくりを、着実に進めていることを学ぶことができた。(平井)



3 熊本地震からの復興と防災対策

〈熊本県益城町〉○視察日:10月5日

【震度7×2からの復興】

県内で唯一震度7(M6.5)の前震と震度7(M7.3)の本震を経験した益城町の人的被害は直接死よりも関連死の方が多かったことに驚いた。災害支援や復旧の順番については多くの学びがあった。また、避難所の設置については空調設備を含め再検討をしなければならないことや、プライベートの部分は車中生活も多く駐車場の確保も大切だと感じた。震災直後の消防団の活躍や、発災時の自治会や議会の対応にも学ぶことの多い視察であった。(八木)



本音本心

今夏、国内は酷暑日が続き、世界的にも観測史上最も暑い夏になっています。人類全体の喫緊課題として脱炭素を推進しなければならぬ局面にあります。政府はじめ、静岡県や本市、そして国民は向き合っており取り組んでいるのでしょうか。私は不安です。いま本腰を入れて対策を打たないと間に合いません。会派提言でも市に対し脱炭素対策の推進を上げましたが、市民一人一人の意識向上も重要です。通勤は自転車です!これが私の提案です。(増田)



発言順4番(9月7日)
川島美希子議員



更なるインクルーシブ社会の実現に向けて

個別配慮の必要な子ども達の現状を伺う。

未就学児では636人。公立の通常学級で学習面、行動面等で配慮が必要な児童生徒は、小学校では877人、中学校では402人。特別支援学級においては、小学校で187人、中学校は84人、全体として増加傾向にある。

課題のある園児の保育に対し、支援を拡大できるか伺う。

保育士不足、保育体制の強化は喫緊の課題である。早期改善のため職員の加配に係る特別支援事業に対する市独自の補助金を来年度から拡大する。

障がいの特化した「ガゼルの森」支援部には入園待機児童がいる。市はどのように対応するか伺う。

一部の事業を来年度から市が実施することで、同園と連携していく。医療的ケア児の受け入れに関するガイドラインの策定、就園支援会議を設置する。令和7年度移築する(仮称)新岡部みわ保育園の研修センターを拠点とした講座や、実務研修などを実施し、地域園の保育士等の発達支援についてのスキルアップを図る。

特別支援学級は十分な指導ができていくか伺う。

これまでも国、県に対して教員の増員や配置基準の改善を要望している。本年、県と協力し青島北小学校の自閉症・情緒クラスにて、8人1学級を4人2学級に編成し、試験的に取り組み中である。

中学校への登校支援教室の評価と、小学校への設置の必要性についても伺う。

設置初年度の昨年は102名が入り、そのうち20名が学級に復帰したことから有効な居場所になったと考える。小学校への設置は早期対応に有効と考え、設置検討を進めている。

インクルーシブ社会の実現に向けての考えを伺う。

社会全体の価値観やモノの見方が変わり人間関係も希薄となつて、孤独感や孤立感を感じている若者や高齢者が増えていることも事実である。大切なのは幼少期からの「心の教育」であり、偏見や差別をなくし人権感覚を育む温かな教育環境を作り、より良い生き方を追求できる社会づくりに取り組む。その一つに公園のインクルーシブ化を検討しており、障がいの有無に関係なく誰もが一緒に楽しめる公園を目指す。



発言順6番(9月7日)
岡村好男議員



岡出山周辺の賑わいづくりについて

岡出山公園の今後の構想について伺う。

岡出山公園は、起伏のある部分の平坦化を行い、志太平洋野を一望できる眺望をより楽しんでもらえるような環境整備を進める。

岡出山小路の整備目的と果たす役割、機能を伺う。

岡公園や旧東海道エリアの神社仏閣へと誘導する「結節点」としての役割を担うとともに、コミュニティ空間を提供するために整備する。ふじえだ花回廊の新拠点としても考えている。

これらの整備を周辺の賑わいにつながるか伺う。

民間事業者と連携した回遊イベントなどを実施し、来訪者増加につなげることで、空き店舗を活用した出店や、空き家の活用により、移住定住を促していく。

日本遺産構成文化財内への宿泊施設建設の具体的内容を伺う。

大慶寺境内の一角に宿坊を建設するものであり、観光庁の補助事業を活用する。木造2階建て、一日一組限定の宿泊施設であり、来年度中に完成する予定であるか伺う。

岡公園の北側を流れる大谷川沿いの景観づくりについて伺う。

地域参加の「景観を考える会議」で旧市街地の特色を活かしたまちづくりの提案が多くあり、その一つとして大谷川の防護柵を情緒あるものに改修するため本年度設計に着手する。

ふるさと納税の推進について

ふるさと納税の課題と取り組みについて伺う。

本来、市民サービスに充当すべき税収が他市に流出する制度は見直しが必要だが、制度が存続する以上徹底的に取り組む。

本年度の抜本的見直しと予算額15億円の達成の可能性を伺う。

全ての返礼品を見直しとともに、中間委託事業者も切り替え新体制とした結果、昨年比200%まで寄付額が伸びている。

企業版ふるさと納税の状況を伺う。

昨年度、企業訪問を強化した結果、企業数47社、寄附額3204万円と、例年の10社前後約500万円から大幅に増額した。今後、MYFCはもとより各文化団体等への支援を検討する。



発言順8番(9月8日)
八木勝議員



こどもの創造性を藤枝市のまちづくりに活かすかについて

こども基本条例の進捗状況について伺う。

藤枝市こども基本条例等策定委員会を設置し、こどもや若者の意見を取り入れつつ制定方針を決定している。また、こども達が参画する会議や集まりも存在し、様々な分野でこどもの意見を聞き入れる方針を構築した。

アンケートやヒアリングを実施することだが、どんな内容なのか伺う。

「興味・関心」「自己肯定感」「居場所」「こどもの権利」「不安・悩み」「意見表明」などを聴取する内容となっている。

こども達の意見を政策に反映させる際の方法やプロセスについて伺う。

フュアリティーターによるワークショップやSNSを活用する方法など、なるべくこども達が意見を言いやすいような環境に配慮し、取り組んでいく。

スポーツ分野で海外留学を希望する中高生に対する支援策について伺う。

市は文部科学省の奨学金制度などを参考に、関係機関と協力して支援策を検討していく。

こどももまんなか社会を実現・重視する一方で、学校現場や保育現場に関わる大人への保護施策について伺う。

スクールロイヤル制度や第三者委員会の設置などを通じて、大人たちへのサポートも行っていく。



9月定例会議会

一般質問レポート



発言順11番(9月8日)
遠藤久仁雄議員



教員志願者減少の中における本市の取り組み

子どもの成長に大きくかわる教員の、なり手不足が生じている。勤務時間外の多労働や職責の重さ等、労働環境の悪化が報じられ若者から敬遠されるようになってきている。国に責任を押し付ける前に、地方公共団体の一員として、藤枝市にもやれることがあるだろう。そう考えてこの質問を行った。

本市は、過去10年間に渡り「ふじえだ教師塾」を開催し、教職を目指す大学生などに対し広く門戸を開け学習の機会を提供してきた。その実績を伺う。

令和元年度からの平均合格率は、県全体の合格率約26%に対し、ふじえだ教師塾は65%以上の高い水準を維持している。これは教師塾の具体的に協働的な演習や講座の過程を通して、塾生一人ひとりが自身の教師像を描き、教師への志を強く持ち続けることができたことによるものと考えている。

教育長の答弁の中に、熱意を持つ塾生たちが本市はもとより、県内各地で教員として子どもたちのために力を尽くすことを期待するといった。このような考えを含め教師塾を設立した思いについて、さらに詳しく伺いたい。

本来の設立目的は、教員採用試験に合格することを請け負うことではなく、また合格者を藤枝市だけに留めておくこともない。広く県内の市町で活躍してもらいたい。教師は何よりも子どもたちにとって一番大きな教育環境である。本市は地方の小さな都市であるが、学校を有していることから、やれることもある。それを活かし、国や県、大学と協力して事業を進めていきたい。

教師塾の今後の役割について伺う。

学校現場では様々な対応が求められる、多様化、複雑化する教育環境に正面から向き合える資質、柔軟性と能力を兼ね備えた人材の育成が必要となる。教員志願者数の減少が問題となっているが、「ふじえだ教師塾」には、教師を志望する人たちが希望を抱き、志を貫く支援の機能が今後益々求められると考える。できる限りの支援を続けていきたい。



教師塾説明会の様子



発言順12番(9月8日)
鈴木岳幸議員



図書館活性化について

来館者数は増加が続いているが、更なる利用促進のための取り組みはどのように行われているか。

図書館資料は専門的知識を持つ司書が選定して配置している。予約した本は交流センターでも受け取り可能で、昨年からは「ふじえだ電子図書館」のサービスも提供している。駅南図書館では空席がない場合には会議室や集客室などを閲覧者に開放するなどして、利用者の利便性向上に努めている。

今後の図書館の活性化についてどのように考えているか。

現在市内には3館の図書館があるが、それぞれの地域の特性を生かし「知と情報の拠点」として機能させていく。今後は視覚障がい者や移動中にも利用できるオーディオブックの導入も検討し、常に新たな価値を提供する図書館運営を行っていく。

eスポーツの普及推進について

eスポーツはかつてはテレビゲームと言われたもので、やり過ぎは悪影響があるとして批判されたものだが、今では年収数億円にもなるプロ選手も現れ、国体の種目にも採用されるなど、大きく発展している。今後も市場の拡大が見込まれているが、藤枝市で大会やイベントなどを開催、誘致することはできないか。

eスポーツは世界中で競技人口、観戦人口が拡大しており、若年層の参加や、集客力・拡散力の高さが注目され、市場規模も急速に拡大している。本年には藤枝市で開催された商工会議所青年部の全国サッカー大会で、フルコートのサッカー、フットサル部門に加え、eスポーツ部門も開催されるなど広がりを見せている。来年は、藤枝市のサッカーのまち100周年の記念の年であるので、その記念事業として総合運動公園のオーロラビジョンなどを活用したeスポーツの大会やイベントなどを誘致して開催していきたい。また、国体eスポーツ種目のサッカー部門の予選大会を、藤枝市に誘致する予定であるが、その後の上位大会の北信越東海ブロック大会も藤枝市内で開催できるように働き掛けていきたい。



eスポーツ競技の様子



発言順13番(9月8日)
増田克彦議員



本市における6次産業化の進展について

6次産業化が本市の経済に与える影響について伺う。

本市で開発されたミカンジュース、毎スイーツなどは藤枝セレクトに認定され、マスコミに取り上げられるなど成功モデルと認識している。農業の6次産業化は、市場の価格変動に収益が左右されず、農家自身が価格決定権を持つことのメリットが大きく、所得の増加や雇用の創出、競争力の強化、そして新しいビジネスモデルの創出など、地域経済の活性化に大きなインパクトを与える。

6次産業の観点からの本市の強みを伺う。

本市は県内有数の有機農業の先進地であり、意欲溢れる有機農業者の存在や、有機農産物を活用した6次産業化が本市の強みである。

「藤枝市農商連携・6次産業化ネットワーク」の成果と進捗について伺う。

「ネットワーク」には181名の会員が登録され、これまで103件の商品開発があった。このうち約6割が事業を継続しており、多くのヒット商品を生み出している。今後は、さらなる「ネットワーク」の連携強化により、首都圏の販路開拓やふるさと納税返礼品へのエントリー、SNSなどを活用した情報発信により消費拡大を進める。

農業と観光の連携の取り組みについて伺う。

農業や自然に新たな価値を創造し観光に繋げるグリーン・ツーリズムに民間や団体の取り組みと一体となり積極的に推進している。

「藤枝おんぱく」では複数のエントリーで農業体験を観光資源として人を呼び込み、好評を博している。



藤枝産緑茶を使用したクラフトビール